

# 2021年9月期 第2四半期 決算説明資料

2021年5月14日

株式会社ツナググループ・ホールディングス（証券コード 6551）



---

① FY21 第 2 四半期決算概要	P. 3
② FY21 第 2 四半期決算詳細	P. 8
③ 通期業績見通しについて	P.17
Appendix	P.22

---

# ① FY21 第2四半期 決算概要

## ① 厳しいマーケット環境が続く

- ・ 新型コロナ感染症拡大の長期化により企業業績が悪化、雇用環境の回復が遅れる

## ② Y o Y では減収減益も、Q o Q では大幅に回復

- ・ 当社経由の求職者数、顧客数ともに大幅に回復し、Q o Q で + 1 5 . 5 % の増収
- ・ Q 1 に実施した構造改革により収益も改善し、Q o Q で 3 億 3 2 百万円の増益

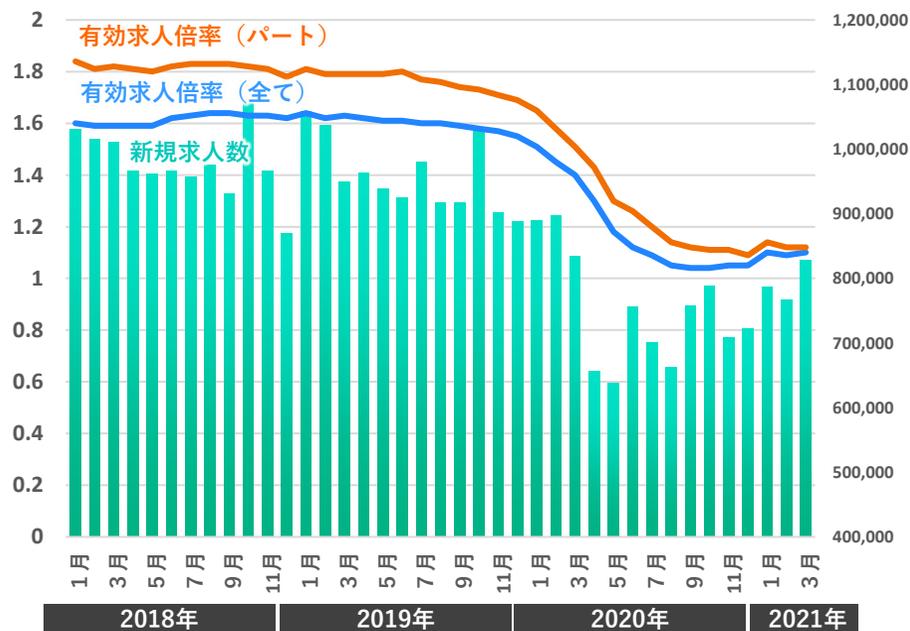
## ③ Q 2 は 6 四半期ぶりの黒字、E B I T D A も四半期累計でプラスに

- ・ Q 2 は 6 四半期ぶりに黒字化を果たした
- ・ E B I T D A は第 2 四半期累計期間において 2 0 百万円のプラスに転じた

## 新型コロナによる雇用環境の悪化が続いている。

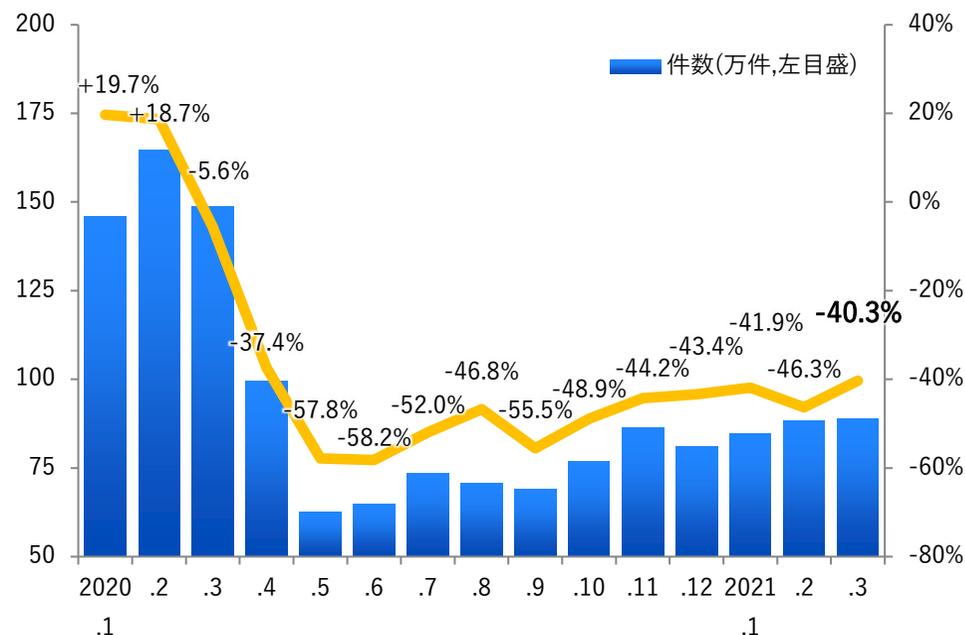
新型コロナウイルスの感染拡大影響により企業業績は悪化。パートを中心に解雇や雇止めが増え、新規求人数及び有効求人倍率の落ち込みが続いている。宿泊・飲食業などを中心に新型コロナの影響が長期化するとの見通しが広がっており、雇用環境の本格回復には時間を要する見込み。

有効求人倍率・新規求人数



出典：厚生労働省「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」

求人件数推移と対前年同月比



出典：公益社団法人全国求人協会「調査発表/求人広告掲載件数」

# FY21 第2四半期 連結決算サマリー ①

第2四半期累計期間の売上高は58億85百万円、前年から▲15.5%の減収ながらも、業績は回復基調にあり、第2四半期は対前四半期から+15.5%の増収。損益面では第1四半期に構造改革費用が生じたことから第2四半期累計では1億95百万円の営業損失となるも、第2四半期は営業利益69百万円と回復。

(百万円)	FY20 第2四半期累計	FY21 第2四半期累計	対前年比 (増減額)	FY21 Q1 第1四半期	FY21 Q2 第2四半期	対前Q比 (増減額)
売上高	6,966	5,885	▲15.5%	2,731	3,154	+15.5%
原価	3,585	3,167	▲11.7%	1,475	1,691	+14.6%
売上総利益	3,381	2,718	▲19.6%	1,255	1,463	+16.6%
販売管理費	3,551	2,913	▲18.0%	1,518	1,393	▲8.2%
営業利益	▲ 170	▲ 195	(▲ 25)	▲ 263	69	(+ 332)
EBITDA*	59	20	(▲ 39)	▲ 145	166	(+ 311)

\*営業損益に減価償却費及びのれん償却費等を加算した調整後EBITDA

# FY21 第2四半期 連結決算サマリー ②

第2四半期の売上高は31億54百万円であり、前年比▲11.5%まで回復。第2四半期の営業利益は69百万円。第1四半期に実施した構造改革の収益寄与もあり、対前年では1億22百万円の増益となった。

(百万円)	FY20 Q1 第1四半期	FY21 Q1 第1四半期	対前年比 (増減額)	FY20 Q2 第2四半期	FY21 Q2 第2四半期	対前年比 (増減額)
売上高	3,401	2,731	▲19.7%	3,564	3,154	▲11.5%
原価	1,761	1,475	▲16.2%	1,824	1,691	▲7.3%
売上総利益	1,640	1,255	▲23.5%	1,740	1,463	▲15.9%
販売管理費	1,757	1,518	▲13.6%	1,788	1,393	▲22.1%
営業利益	▲ 117	▲ 263	(▲ 146)	▲ 53	69	(+ 122)
EBITDA*	▲ 4	▲ 145	(▲ 141)	63	166	(+ 103)

\*営業損益に減価償却費及びのれん償却費等を加算した調整後EBITDA

## ② FY21 第2四半期 決算詳細

# FY21 第2四半期 連結損益計算書

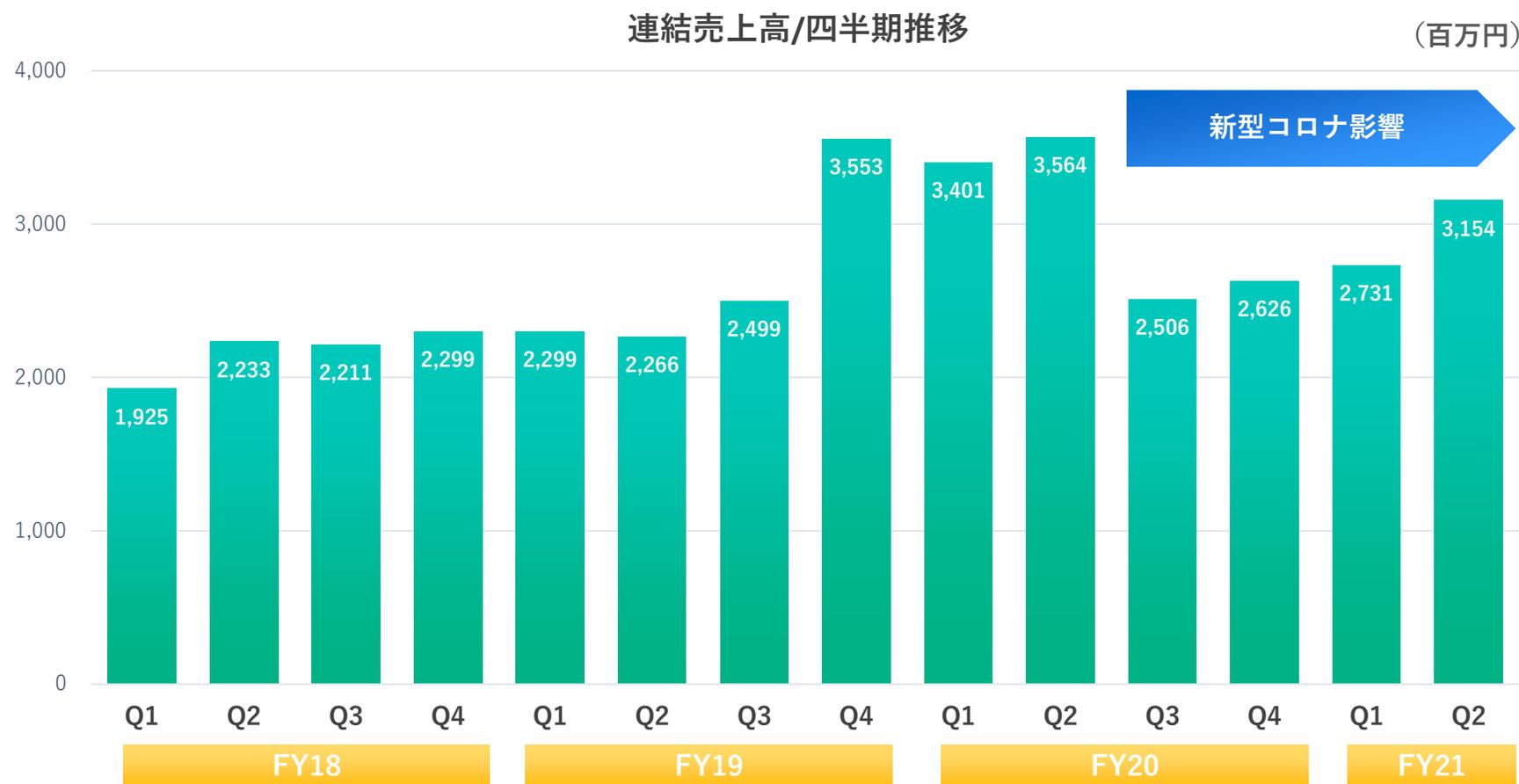
対前年では減収が続くものの、構造改革による費用削減により、第2四半期は黒字に転換。EBITDAも第2四半期累計期間において、プラスに転じる。

## 連結損益計算書

(百万円)	FY20 第2四半期累計	FY21 第2四半期累計	対前年比 (増減額)	FY21 Q1 第1四半期	FY21 Q2 第2四半期	対前Q比 (増減額)
売上高	6,966	5,885	▲15.5%	2,731	3,154	+15.5%
原価	3,585	3,167	▲11.7%	1,475	1,691	+14.6%
売上総利益	3,381	2,718	▲19.6%	1,255	1,463	+16.6%
販売管理費	3,551	2,913	▲18.0%	1,518	1,393	▲8.2%
人件費	1,687	1,557	▲7.7%	784	772	▲1.5%
広告宣伝費	760	410	▲46.1%	215	195	▲9.3%
販売促進費	62	46	▲25.8%	16	29	+81.3%
業務委託費	28	28	+0.0%	15	13	▲13.3%
システム費用	69	69	+0.0%	31	38	+22.6%
地代家賃	176	158	▲10.2%	86	71	▲17.4%
償却費等	186	174	▲6.5%	96	76	▲20.8%
資産除去債務	8	25	+212.5%	21	3	▲85.7%
その他	575	446	▲22.4%	254	196	▲22.8%
営業利益	▲170	▲195	(▲25)	▲263	69	(+332)
EBITDA*	59	20	(▲39)	▲145	166	(+311)

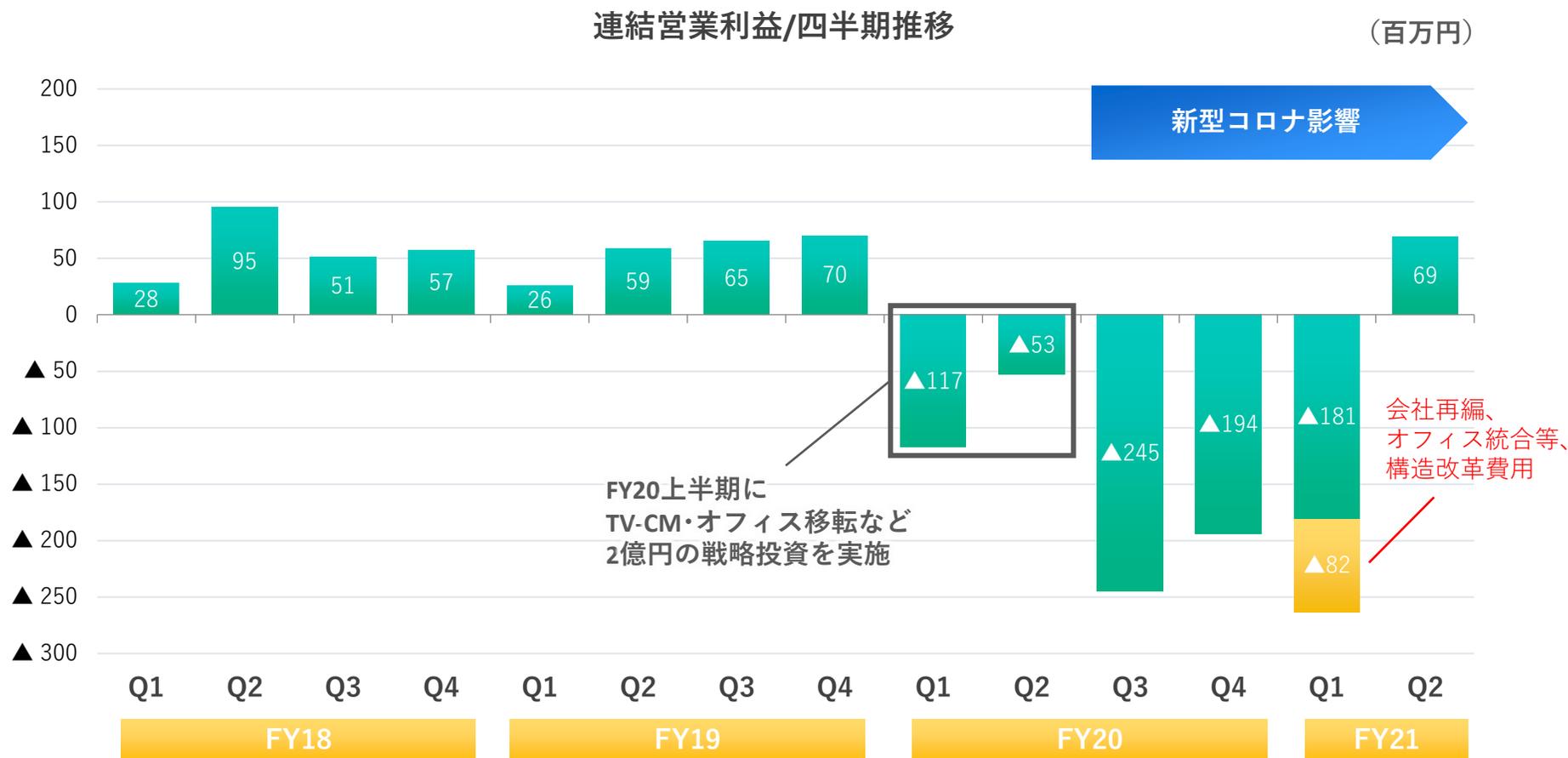
\*営業損益に減価償却費及びのれん償却費等を加算した調整後EBITDA

売上高についても、四半期毎の推移では引き続き回復している。第2四半期は、大型受注もありQoQで+15.5%の回復となった。



# 連結営業利益推移

営業利益も回復基調にあり、第2四半期の営業利益は69百万円となった。  
前年上半期の戦略投資による赤字もあり6四半期ぶりの黒字。



# FY21 第2四半期 貸借対照表

新株予約権発行による自己資本の増強により、純資産は前期末より103百万円増加。

### 連結貸借対照表

(百万円)

	20年9月末	21年3月末	増減
流動資産	2,336	2,796	459
固定資産	2,965	2,864	△ 101
有形固定資産	248	230	△ 18
無形固定資産	2,247	2,130	△ 116
投資その他の資産	470	503	33
資産計	5,302	5,661	358
流動負債	2,489	2,922	432
固定負債	2,091	1,913	△ 177
負債計	4,580	4,835	255
資本金等	860	1,121	261
利益剰余金	△ 96	△ 253	△ 156
自己株式・非支配株主持分等	△ 41	△ 42	△ 1
純資産合計	721	825	103

## HRマネジメント事業

- 採用業務支援（RPO）
- 人材定着支援
- 外国人採用
- 各種業務代行

## メディア&テクノロジー事業

- 採用メディア
- 短期求人メディア
- Webマーケティング
- 採用コンサルティング

## スタッフィング事業

- 人材派遣／人材紹介
- 派遣センター
- コンビニ運営

採用業務支援（RPO）領域では、外食・サービス業を中心に採用抑制が続いていることから、売上高が大幅に減少。ただし、新卒のRPOでは、前年同期比より微増。また、対前Q比での大幅な売上高増は、業務代行領域における大型受注によるもの。結果、当セグメントは損益面で黒字に転換。

(百万円)	FY20 Q2累計	FY21 Q2累計	対前年同期比 (増減額)	FY21 Q1	FY21 Q2	対前Q同期比 (増減額)
売上高	1,923	1,647	▲14.4%	623	1,024	+64.4%
セグメント利益	24	1	(▲ 23)	▲ 111	113	(+ 224)

セグメントメディア領域では、求人需要の回復が低調なことにより減収。ただし『ショットワークス』の派生サービスである、デリバリーや倉庫・物流業界向けに特化したサービスは大きく伸長。HRテクノロジー領域では、ダイレクトリクルーティングサービスである『Findin（ファインドイン）』などが堅調に推移。

(百万円)	FY20 Q2累計	FY21 Q2累計	対前年同期比 (増減額)	FY21 Q1	FY21 Q2	対前Q同期比 (増減額)
売上高	3,711	2,932	▲21.0%	1,354	1,578	+16.5%
セグメント利益	▲ 91	▲ 107	(▲ 16)	▲ 89	▲ 17	(+ 72)

人材派遣・紹介領域では、販売・サービス業を中心に案件数や案件規模が縮小。日々紹介事業は、伸長しているものの、補うには至らずおよそ1割の減収。コンビニ領域では、コロナ禍によるマイナス影響の中でもニューノーマル下での中食需要に対応した売り場展開による日販の回復により二桁の増収。

(百万円)	FY20 Q2累計	FY21 Q2累計	対前年同期比 (増減額)	FY21 Q1	FY21 Q2	対前Q同期比 (増減額)
売上高	1,684	1,712	+1.7%	914	797	▲12.8%
セグメント利益	▲ 75	▲ 48	(+ 27)	▲ 7	▲ 40	(▲ 33)

### ③ 通期業績見通しについて

コロナ下の厳しい環境ではありながらも、当社経由の求職者数、顧客数は大幅に回復している。

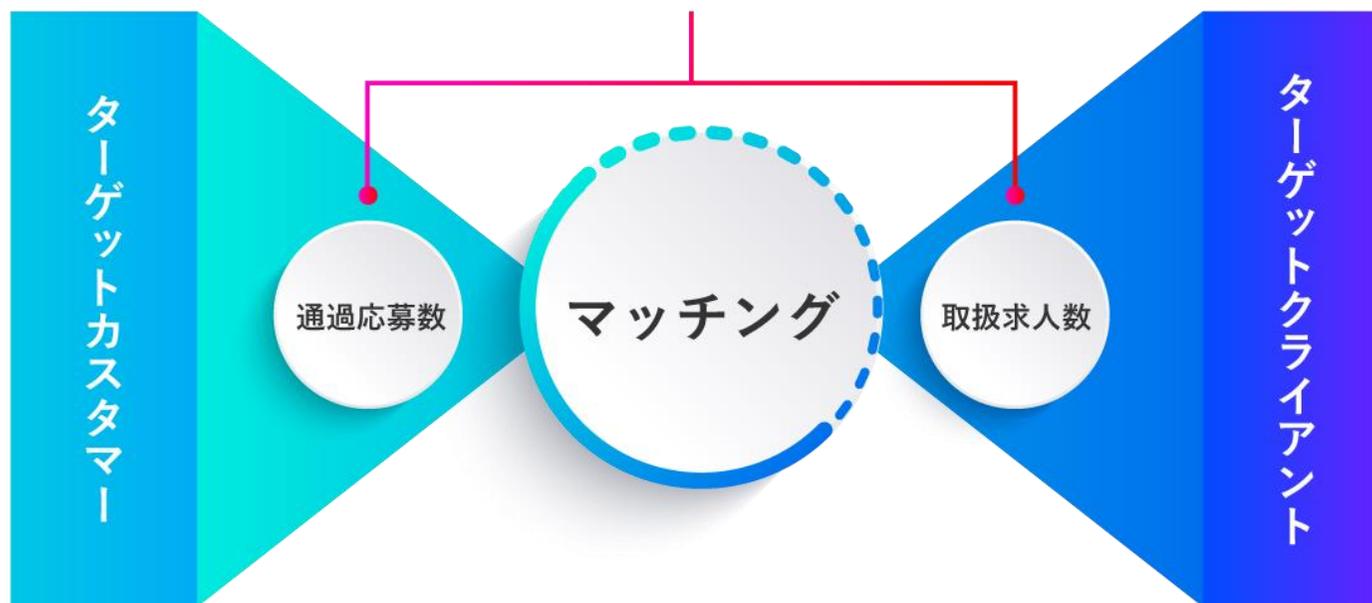
- ✓ カスタマー数 2021年3月 25.5万人 (2020年5月 月間約17万人) +50%増
- ✓ クライアント数 2021年3月 2,500社 (2020年5月 月間2,000社) +25%増

## <年間カスタマー数、クライアント数状況>

265万人／年

137万マッチング／年

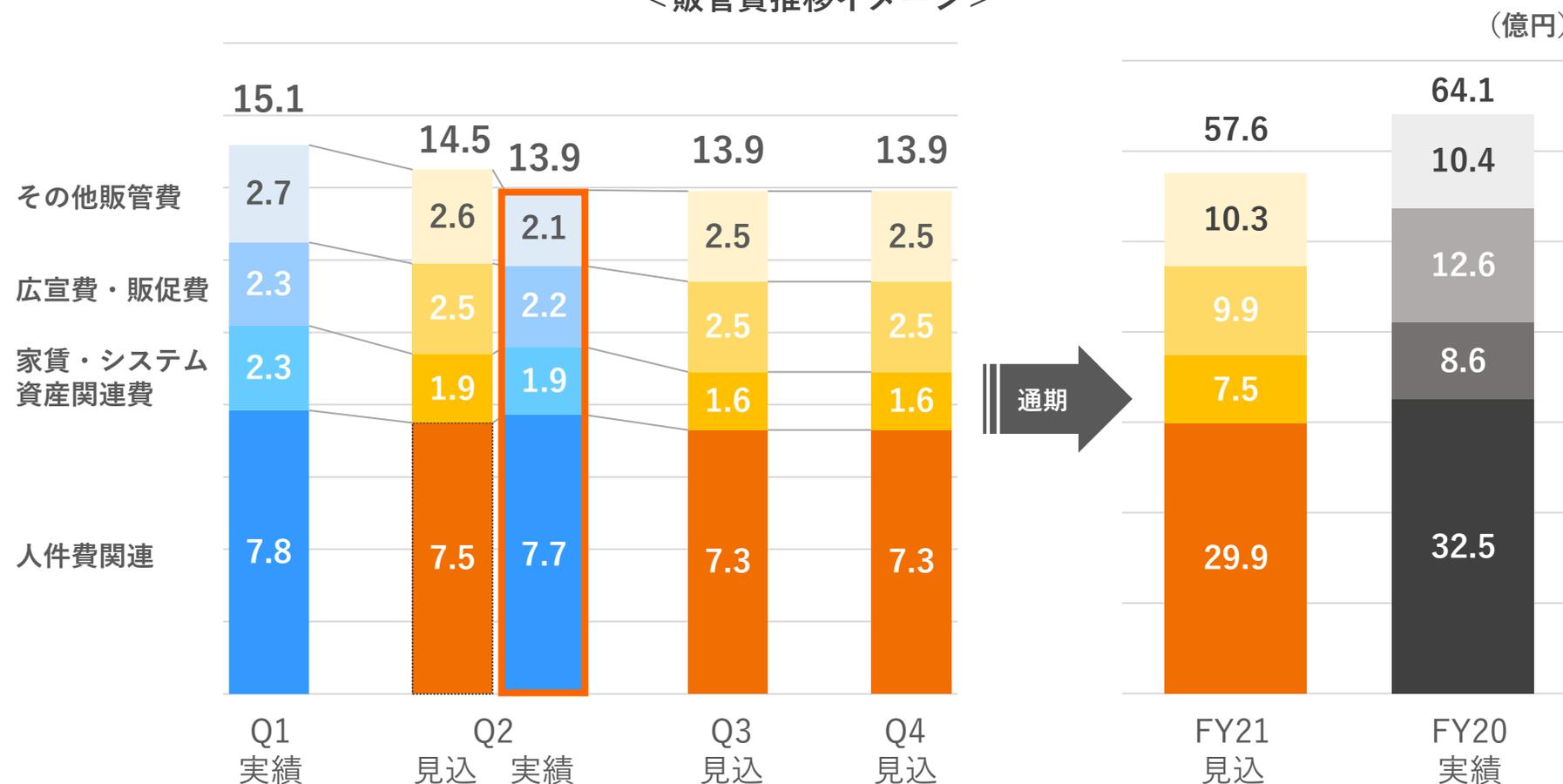
2.7万社／年



※集計期間2020年4月～2021年3月

販管費については、組織再編及び本社移転、システム統合などを通じて対前年で約6.5億円の削減を見込んでいたが、Q2においては計画から更に60百万円を削減。今後も計画通りの推移を見込む。

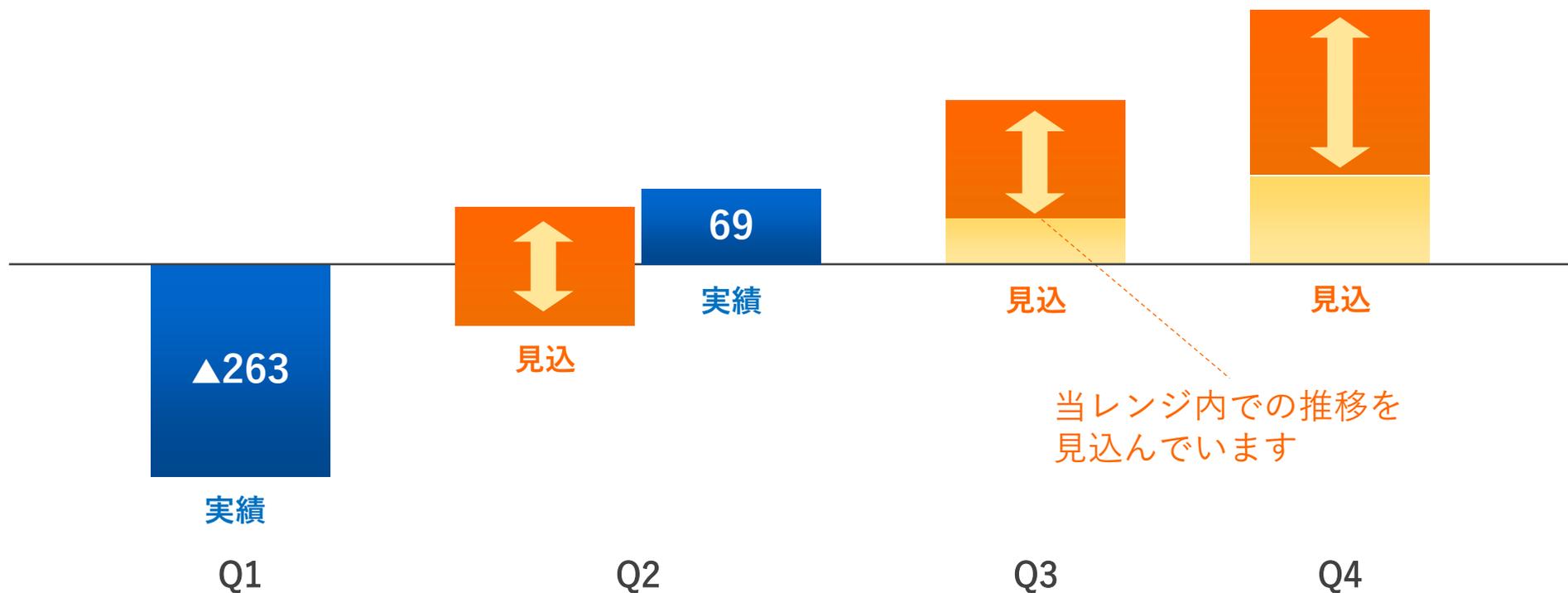
<販管費推移イメージ>



当期の収益は、Q2においてはレンジ予想の上限を超える着地となった。  
 今後も構造改革による固定費の大幅な削減、限界利益率の向上を図り、四半期ごとの改善を見込む。  
 （緊急事態宣言の影響を精査中であり、レンジ内での推移見込みとしている）

## <営業利益推移イメージ>

(百万円)



結果、通期業績予想については、当初予想を据え置き、売上高125億円、EBITDA\*4.4億円

## FY21通期業績予想

(百万円)

通期	FY20	FY21	YoY
売上高	12,098	12,500	3.3% (+402)
EBITDA*	△171	440	－ (+611)

\* 営業利益に、のれん並びに減価償却費用を加算した調整後EBITDA

※配当につきましては、引き続き未定とさせていただきます

# Appendix

社名	株式会社ツナググループ・ホールディングス
設立	2007年2月28日
資本金	650,712千円（2021年3月末時点）
所在地	東京都千代田区神田三崎町3丁目1-16 神保町北東急ビル1F・2F
代表者	代表取締役社長 米田 光宏
従業員数	615名 / グループ合計（2020年9月末時点の正社員）
上場市場	東京証券取引所 市場第一部（証券コード：6551）



代表取締役社長

よねだ みつひろ  
米田 光宏

1969年生

大阪府出身

1993年

株式会社リクルートフロムエー  
(現株式会社リクルート)入社

営業、商品企画、営業企画などを担当

2003年

株式会社リクルート  
(現株式会社リクルートホールディングス)出向

マーケティング業務などを経て  
アルバイト・パート領域の事業企画責任者

2007年

株式会社ツナグ・ソリューションズ設立

私たちは「採用市場におけるインフラ企業」を目指し積極的にM & A や事業会社設立を展開しています。

- 
- 2007年2月 設立
  - 2007年3月 創業「RPOサービス開始」
  - 2013年11月 株式会社テガラミルを子会社化
  - 2015年3月 株式会社インディバルの全発行株式をヤフー株式会社より取得
  - 2015年4月 株式会社チャンスクリエイター設立
  - 2016年8月 株式会社スタッフサポーター設立
  - 2017年6月 東証マザーズ市場に株式上場
  - 2017年9月 株式会社asegoniaを子会社化
  - 2018年1月 株式会社スタープランニングを子会社化
  - 2018年7月 東証市場第一部に市場変更
  - 2018年10月 Regulus Technologies株式会社を子会社化
  - 2019年6月 ユメックス株式会社を子会社化
  - 2019年10月 株式会社ツナググループ・マーケティング設立
  - 2020年4月 株式会社GEEKを子会社化
  - 2021年1月 グループ会社を再編統合

## 免責事項

- この資料は皆様の参考に資するため、株式会社ツナググループ・ホールディングス(以下「当社」という)の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。
- 当資料に記載された内容は、現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

## 将来見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。

IR関係のご質問・お問合せは、こちらまでお願いいたします

株式会社ツナググループ・ホールディングス／IR担当

**TEL**：03-3569-2790（受付時間 平日 11：00～17：00）

**MAIL**： [ir@tsunagu-grp.jp](mailto:ir@tsunagu-grp.jp)

**お問合せフォーム**： <https://tghd.co.jp/ir/inquiry/>

※緊急事態宣言期間中はお電話による受付を控えさせていただいております。  
お問合せがございましたら弊社ホームページのお問い合わせフォーム、もしくはメールにてご連絡いただきますよう、お願い申し上げます。